

5B.3T

2023年2月営業運転開始

廃棄物由来の燃料を活用する環境配慮型発電設備を新設

いわき大王製紙は、2001年に業界初となるバイオマス発電設備を導入し地球環境に配慮した工場経営を進めてきました。今回、燃料としての利用が難しいとされる廃棄物由来の燃料も使用可能な発電設備（5号ボイラー・3号タービン）を新規導入し、2023年2月より営業運転を開始しました。古紙・廃プラスチックなどの資源の有効活用を通じて環境問題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

大王グループ理念

やさしい
未来の実現

マテリアルリサイクル
×
サーマルリサイクル

- 難処理古紙の有効活用
- 廃棄物由来燃料の使用拡大

2023年1月稼働

5号ボイラー、3号タービン

発電能力 : 約20,000kW

化石エネルギー削減量 : 29,000kl/年(原油換算)



マテリアルリサイクル

いわき大王製紙では、年間約60万トンの古紙をリサイクルし、新聞用紙、段ボール原紙に再生しています。難処理古紙（異物が多く従来は古紙として利用できなかった紙）の増利用を進めており、原料として古紙を高度利用することで循環型社会に貢献しています。



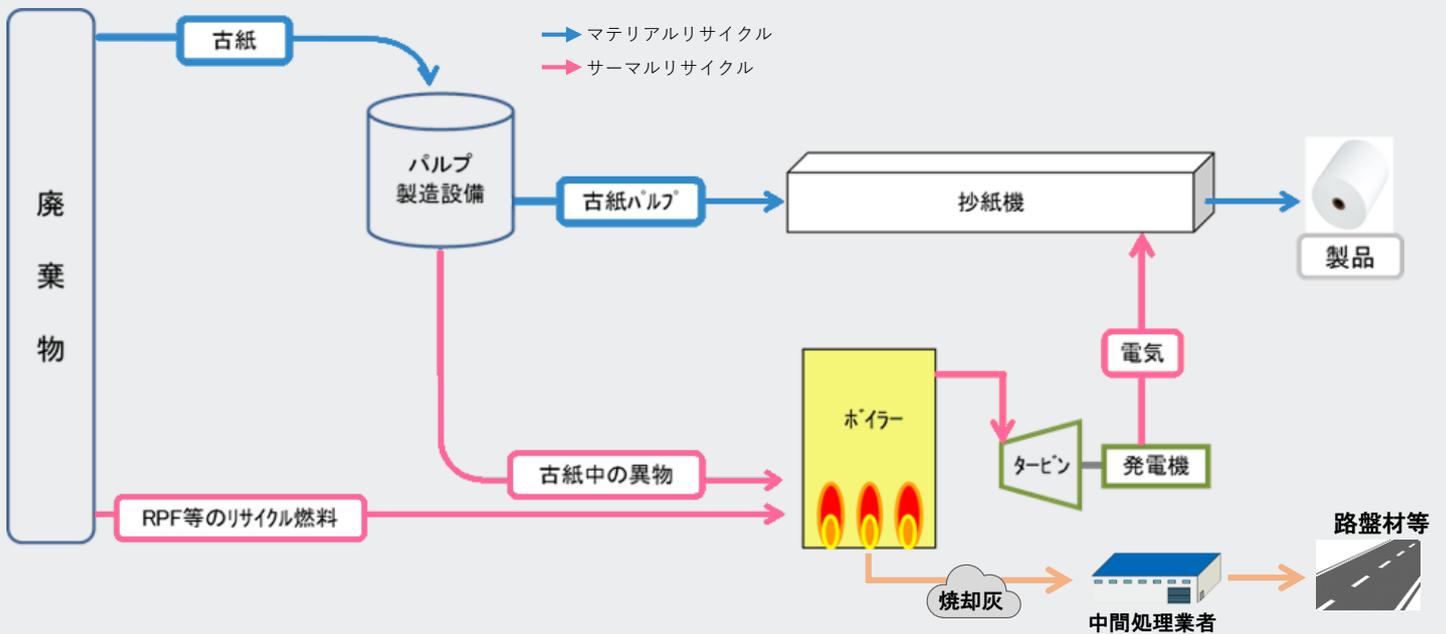
パルパー（古紙を水で混ぜて溶解する）

サーマルリサイクル

環境負荷の少ないバイオマスや廃棄物由来の燃料を使用して工場の電力を自家発電しています。古紙の処理工程で取り除く古紙中の異物（廃プラスチック系のゴミ）もボイラーの燃料として使用、また、焼却後の灰は路盤材等に再利用されています。



スクリーン粕（古紙から取りのぞいたビニール片などのゴミ）



新設5号ボイラー・3号タービン主要設備



ボイラー本体



排煙脱硫装置



煙突



3号タービン



冷却塔



灰処理設備



トラックダンパー



燃料サイロ